

はじめに

サ ト ウ タ ツ ヤ

(人間科学研究所専任研究員・文学部助教授)

この冊子は、対人援助の実践や研究に関係する方法論のうち、質的研究アプローチをモチーフとした講演やシンポジウムの内容を1冊にまとめたものである。

ご講演いただいた先生方に改めてお礼を申し上げたい。

日々の人間関係や実践は割り切れないことが多い。ましてや統制のとれた実験ができないことも多い。対人援助学の研究・実践はまさにそうしたフィールドの1つである。

個々の実践や研究は多様であり、個別の実践や研究をとってみれば、他との重なりはないかもしれない。だが、今回収録した3つの会の記録は、何らかの転用可能性をもっていると思われる。個から普遍を目指す必要が常にあるわけではない。使えるヒント、可能性を示してくれる理論があれば良いのではないだろうか。

そういう観点から、この冊子が読まれてほしいと願っている。

さて、立命館大学人間科学研究所はこの4年間、学術フロンティア推進事業「対人援助のための人間環境デザイン」に取り組んできた。2004年度が最終年度であり、現在研究の総仕上げにかかっている時期である。

この間の議論や実践を通じて生じたシーズが芽を出しつつあることを感じる。それは2004年度にプロジェクト研究をまとめる力となるだけでなく、5年間という期間が終わったあとも力強い息吹となっていっくだろう。

最後に、今回収録した3つの会の日時についてまとめておく（敬称略）。

2003年9月5日

講演

演題「心理学からみた質的研究」

講演者 = 立命館大学文学部心理学科助教授 サトウタツヤ

シンポジウム

フィールドでの 声 をどのように聞くか？

- 「加工」以前の現場研究覚え書き

報告者（大阪体育大学短期大学部・講師） 草山 太郎

報告者（札幌国際大学・講師） 宮内 洋

2003年11月9日

立命館大学人間科学研究所講演会

演題「ナラティブ・ベイスト・メディスン：医学と人間科学のコラボレーション」

講演者 = 富山大学保健管理センター所長・教授 斎藤清二

2004年1月25日

日本学術振興会・人文・社会科学振興のためのプロジェクト研究事業「ボトムアップ人間関係論の構築」プロジェクト & 日本心理学会フィールド心理学研究会 & 立命館大学立命館大学人間科学研究所 共催

講演とシンポジウム「文化心理学と人間関係の諸相」

演題「今日の文化心理学(Cultural Psychology Today)」

講演者 = クラーク大学教授（立命館大学客員教授）Jaan Valsiner

参考・立命館大学人間科学研究所 HP

http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rsc/hs/hs_index.htm